

関西大学英语入試問題分析から見えてくる課題と展望

水本 篤

関西大学 外国語学部

背景

英語 4 技能を統合的に測定することの重要性から、入試に外部英語検定試験を導入する動きが国内の大学で広がっている。各大学で独自に 4 技能試験を作成するという事は、問題作成業務や、大規模テストでライティングやスピーキングのパフォーマンスを厳密に評価することが現実的には難しいことを考えても、実際、入試で 4 技能試験を導入する際には、外部英語検定試験を利用することになる。ただし、そのような外部英語検定試験の導入が、全面的かつ数年以内に行われるとは考え難いため、各大学の入試問題作成担当部署は、現行の入試問題を改善し、合否判定のためにより正確な診断情報を得る努力を継続していかなければならない。しかし、ハイスタークスのテストである日本の大学入試では、作問段階で改善のために予備テストを行ったり、過去に実施した問題を分析し、良問をアイテム・バンクとして活用するというような、言語テスト分野で推奨されている一連の流れはほとんど行われていない。

本研究ではそのような現状をふまえ、関西大学入試センターとの共同プロジェクトの一部として、過去の関西大学英语入試問題の項目分析を行い、現行の英語入試問題形式の課題を明らかにし、今後の入試問題作成改善に寄与することを目的とした。

方法

2015 年度関西大学英语入試問題として実施された 10 セットのうち(テストの構成と形式は表 1 を参照)、問題セット X (受験者数 10,982 名)と問題セット Y (受験者数 10,035 名)のローデータを用い、以下のような分析により現行の英語入試問題の課題と改善すべき点を検討した。

- 古典的テスト理論による項目分析
- 因子分析による因子構造の確認
- 潜在ランク理論を用いた受験者のプロファイリング
- コンピュータ適応型テストのシミュレーションによる問題数の検討

表 1. 関西大学英語入試問題の構成と形式

大問		内容	問題形式	問題数	配点
I	A	会話文問題	4 択	5	1 問 4 点
	B	文章整序問題	文の順序を復元	6	
II	A	本文空欄補充問題（読解）	4 択	15	
	B	概要理解問題（読解）	3 択	7	
III	A	詳細理解問題（読解）	3 択	10	
	B	要点理解問題（読解）	3 択	7	
				合計 50 問	200 点

課題と展望

上記のような分析を通して、次のような課題や展望が明らかになった。

- (a) 合計点では問題がないと考えられるが、大問ごとでは信頼性係数が低いものもあり、従来の項目分析では解釈に注意が必要な場合がある。
- (b) 問題セットにより因子構造が異なるため、より想定する構成概念に近い問題が作成できるように、項目分析の結果をふまえ問題作成を改善していく必要がある。
- (c) 潜在ランク分析から、合計点が低い受験者は、すべての大問で上位のランクの受験者よりも低い推定値が得られたが、ただし、これについても大問ごとに正確な測定ができているという前提であるため、やはり各大問においてより良い項目を作成できるように心がけなければならない。
- (d) コンピュータ適応型テストによってより少ない問題数で正確な能力推定を行える可能性がある。

入試のローデータを分析し、その後の問題作成業務に反映していくというような前例は国内ではあまり見られない。本研究の試みからもわかるように、予備テストやアイテム・バンクが前提となっていない大学入試問題作成においても、継続的に分析を行うことによって、より測定精度の高いテストの作成が可能になると考えられるため、そのような取り組みは続けていくべきである。

謝辞

本研究を遂行するにあたり、関西大学入試センターから入試データの提供をいただきました。ここに記して感謝いたします。